

第 11 回 ヒューマニティ関連教科担当教員会議 議事録

テーマ： 薬学部における倫理教育を考える

日時： 平成 29 年 3 月 25 日(土)12:00～13:00

場所： 日本薬学会第 137 年会 V 会場(東北大学川内北キャンパス C205)

出席者： 64 名(世話人含む)

配布物： 会議プログラム、出席者名簿、日本薬学会薬学教育委員会医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ報告(資料 1)、2017 年 3 月ヒューマニティ関連教科担当教員会議アンケート集計結果(資料 2)、第 3 回アドバンスコミュニケーションスキルアップトレーニング報告(資料 3)、第 4 回教科担当教員中央会議 議事録(資料 4)、第 10 回ヒューマニティ関連教科担当教員会議 議事録(資料 5)

開会に先立ち、委員長より、会議の趣旨、会議の流れが説明された。

1. 倫理教育に関する情報共有

1-1. 日本薬学会「医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ」報告(資料 1)

日本薬学会薬学教育委員会が主催し、平成 29 年 1 月 20 日に慶應義塾大学薬学部で開催された「第 4 回医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ」について、参加者であった世話人(石田志朗(徳島文理大))より報告された。今回のワークショップは、改訂コアカリキュラムにおける「A 基本事項(2) 薬剤師に求められる倫理観」と「G 薬学研究の位置づけ」の関連性をふまえ、よりよい教育手法について検討することを目的に、倫理教育を担当する教員が各大学より参加した。第 I 部では、「研究倫理と私」をテーマに、「研究の時に自分が気にしている倫理」、「学生、後輩へのその内容の伝え方」、「大学で倫理教育を行う上での現状の問題点と課題」の 3 課題についてワールドカフェ形式により討論した。第 II 部では、「臨床研究倫理に関する教育方法・教材(学習方略)の提案」として、「臨床研究と日常診療の相違点、類似点」に関して SGD を行い、その後有田悦子先生(北里大)による「臨床研究におけるインフォームド Consent」、田代志門先生(国立がん研究センター)による「なぜ研究と診療の区別が問題になるのか」の導入教育や DVD の視聴により、研究倫理やその教育手法の見識を深めた。第 III 部では、「大学で倫理教育を行う上での現状の問題点、課題」として第 I 部の結果を踏まえて SGD により問題点・課題に対する解決方法を討論し、その結果が発表された。(資料 1)

1-2. アンケート結果報告(資料 2)

資料 2 に基づき、担当教員を対象として事前に行ったアンケートの結果について、世話人(石田志朗(徳島文理大))より説明された。アンケートの回答は、69 校から得られた。今回のアンケートは、日本薬学会「医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ」で行われた内容を受けて、「医療倫理、臨床研究倫理などの倫理教育全般」に関するものであった。倫理教育には、倫理教育専門の学内教員が担当している大学が 30%、学内教員が兼任している場合が 45%、学外の講師に依頼している場合が 25%と、専門の教員は全体の 1/3 に過ぎなかった。しかも、講義をその専門教員のみで行うのは 11%と少なく、その教員と共に学内教員や学外の教員および薬剤師等が教育を担当していた。学外の教育担当者は、薬剤師が最も多く 34%、次に他大学教員、医師、患者、看護師、弁護士などが続いた。僧侶に講義を依頼している大学もあった。一方、倫理教育の実施期間は 1 年次が最も多く、次に 3 年後期から 4 年前期の実務実習前に集中していた。学習

方法は、講義のみの大学もあったが、DVD の利用や SGD を導入している大学が多かった。倫理教育に使用しているテキストは、各大学で異なり統一されたものはないことがわかった。また、倫理教育の教育方法に加え評価方法についても多くの大学から問題点として挙げられた。

1-3. 各大学の実践事例の紹介

以下の大学より、改訂コアカリにおける倫理教育に関連した取り組み事例が紹介された。(敬称略)

高崎健康福祉大学(土井信幸) 研究室単位ではあるが、地域サロンに学生が参加している。学生の高齢者に対する態度が変わるかを検討し、今後低学年に落とし込んでいく予定である。

九州大学(島添隆雄) 2～4 年生に対して同じキャンパス内の他学部との IPE を実施している。4 年生は、前年度に授業を受けた学生が各学部でディスカッションできるシナリオ(インフォームド・コンセントを含む)を作成する授業、および臨床研究に関する講義を受けた。

安田女子大学(向井良) 看護を含む全学で毎週木曜日に講演とディスカッションという授業を行っている。

慶應義塾大学(石川さと子) 改訂コアカリに対応して、これまでの「患者から学ぶ」の授業が「医療・薬剤師倫理」となり、H29 年度より開講される。

北里大学(有田悦子) ICR Web や、VTR 閲覧後にディスカッションといった方法で、臨床研究の倫理を学ぶ機会を作っている。

2. コミュニケーション教育に関する情報共有

資料 3 に基づき、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会主催による第 3 回 ACST(アドバンスコミュニケーションスキルアップトレーニング)セミナーについて、世話人(野呂瀬(北海道薬大))より説明された。同セミナーは現場薬剤師を対象としたコミュニケーションの実技評価とフィードバックを目的とした、模擬患者(SP)参加型ロールプレイングによる参加型研修会である。参加者として「薬剤師役」「評価者役」が、各々の立場でロールプレイ、評価に取り組み、進行役であるタスクフォースからのフィードバックがなされた。本報告では、セミナーの概要とともに、参加者の声が紹介された。あわせて、同学会主催のコミュニケーションセミナー、学術大会について案内された。

3. その他報告事項

3-1 薬学教育協議会 教科担当教員中央会議報告

資料 4 に基づき、平成 28 年 12 月 14 日に開催された中央会議の議事録について、世話人(石川さと子(慶應大))より報告された。

最後に 2017 年 9 月に名古屋市立大学で行われる第 2 回日本薬学教育学会大会の紹介があり、閉会となった。

以上